



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《 吹き矢大会 / ナイス・デイ 》

「皆で吹き矢をやったらどうだろう？」と利用者のSさんから提案があった。スタッフも聞いたことはあるが、見たことも勿論やったこともない。翌日、偶然にも新聞に“中高年に吹き矢人気”という記事が掲載されていた。“の中で爽快感。呼吸法で健康効果”等々。

次の利用日にはSさん自らが広告やカレンダーを利用して試作品を作ってくれた。改良・研究もお任せし、いよいよ吹き矢大会。吹き矢も玉も個々の利用者さんに合わせ沢山作ってあり、皆さんも童心に返ったかのように風船めがけて一生懸命吹き矢を飛ばす姿はとても微笑ましかった。企画・制作して下さったSさんに敬礼。体力や脚力・腕力など身体能力に関係なく誰もが楽しめる吹き矢。今回で終わりではなく、バリエーションを変えて今後のレクリエーションに繋げていきたい。そして、これからも利用者さんの自発的な意見や行動を大切にしていきたい。



《 防災訓練 / 愛宕の家 》

署員さん立ち会いのもと10月の避難訓練が行われました。愛宕の家から実際に通報訓練するところからスタート。災害が起きた時、エレベーターが使えない場合も想定されます。そんな時、自力で階段を下りられない人はスタッフがベランダへ避難させ、安全を確保し救助を待ちます。別のスタッフは到着した救急隊員に「ベランダに要救助者がいる」と速やかに伝えます。日頃から様々な場面を意識した訓練を行うと共に消防署との連携は欠かせません。



《 本人と娘の想い / ナイス・ケア 》

お昼に訪問すると、テレビの前で椅子に座るYさんがいた。1人で移動するのはベッドからポータブルトイレだけと思っていたので見慣れない光景に驚いた。「お気に入りの番組が始まる前に座っていたい」と、朝の担当者に椅子を置いてもらったらしい。報告を受けた責任者は「Yさんの気持ちはわかる。でも、転ぶ可能性もあるし…」と遠くに住む娘さんに電話をした。娘さんからは「楽しみにしているなら椅子を用意してあげて。でも体調の悪い時はやめてね」と遠方の母を思う返事を頂いた。意欲的なYさん、転倒の危険があることを意識しながら本人の意向を尊重した娘さん、両方の気持ちを受け取った。二人の思いを無駄にせず、安全に気を付けて努めていきたい。

《 むせる / 看護師コーナー 》

私事ですが、8月26日に元気な男の子を出産。3400gで産まれた体重が今では6.5kgになり、足はボンレスハムのよう！その栄養源となっているのは私の母乳である。お陰さまで母乳は双子を育てられる程の勢いだ。授乳していると息子はよくむせた。「なんだ？この子、何か異常があるのか？」と子育て初心者な私は不安になった。産後の保健所訪問で相談すると「おっぱいの勢いが良すぎるからよ。」と言われた。搾乳してみると確かにすごい勢いでいろんな方向におっぱいが噴射した。こりゃ、むせるはずだ。

生後2ヶ月が経ち、時々むせこんで、大泣きすることはあるものの、明らかにむせる回数は減った。そして見るからに、乳首を控えめに口にふくむようになった。息継ぎも上手くなっている。この母乳が息子にとって生きるためのもの。その母乳を得るために、お腹が空いたら大声で泣き、私を呼ぶ。そして、色々な神経を集中させ、吸い始める。上手く飲み込めないと、「むせる」という反応がある。満足すると口を頑なに閉じる。生きるために、口に入ってくる母乳の量や噴射する方向、乳首の形などを舌や唇などで感じ取り、それを上手く飲み込むために学習しているのだ。まさに今、息子はこれからやって来る多種多様な生きるための糧を得るため嚙下訓練中。学習する力がこんな小さな体の中にあふれている！そう思うと、これからどんな事を学習し身に付けていくのか楽しみでならない。

日々、息子の成長ぶりを観察する楽しさが授乳を通して自分の脳にしみわたった。息子よ、このおっぱいから色々なことを学んで大きくなれ！そんな息子との関わりから、“口に入ってくる物を感じ取り、どのようにのみ込むのかを学習する力が低下したとき、摂取障害がおこるのだ”と改めて教えられた。次回から「口から食べる」ことやその障害、対策について深めていこう…私も今から勉強します！



(利用者さんに抱っこしてもらいスヤスヤ…)

《 11月利用状況 / S・O・S 》

☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
7	10	9	8	9	8	8

(数字は定期のご利用者数)

☆ナイス・ケア(定員なし)

新規サービス大歓迎

★ナイス・ホーム(定員12名)

登録者12名

★愛宕の家(定員10名)

入居者10名(満室)

☆…募集中 / ★…満員

お気軽にお問い合わせ下さい

老いの姿から学ぶ ～ 幸か不幸か、歩けるようになった ～

8月に入居されたYさんは奥さんと二人暮らし。温泉旅行中に転倒、骨折され、その時のCT撮影により、脳に委縮が認められ、アルツハイマー型認知症が主体の混合型認知症と診断された。その後は老年科を受診しながら、在宅介護を続けてきたが、奥さんの精神的疲労に肉体的疲労も重なり極限の状態になった。共倒れにならないように介護施設を捜し、家庭的といわれる某グループホームへ入居を決意した。

1対1で長年寄り添ってきた奥さんにしてみれば、入居したYさんの様子が気がかりで仕方がない。1ヶ月が経過する頃、目も虚ろ、施設内での転倒を繰り返し、Yさんが車いすの生活になった。様子を聞けば聞くほど不安になるばかり。何度も面会に通った。家族の思いがいろいろと交錯する中、愛宕の家への転居を決断された。

確かに愛宕の家に来られた当初のYさんは車椅子から立ち上がろうとするが立てず、車椅子からもよくずり落ちていた。多種類の服薬によるものか、常に痒い痒いと訴えていたため、本人の様子を見ながらかかりつけ医と相談し、薬を少しずつ減らしていくと、いつの間にか痒みの訴えも減り、1ヶ月も経たない内に歩き始めた。足腰の力は復活し、話される言葉もしっかりしてきて、見るからに健康的になった。奥さんもその姿を見て喜んでいました。

が、しかし…である。その後は、まるでヨチヨチ歩きの子供が嬉しくて仕方がない様に歩き周り、介護者は片時も目を離すことが出来なくなってしまった。つい先日、明け方5時頃、ちょっとした隙にYさんがいなくなった。大探ししても施設内には見当たらず、薄暗い中、500メートル程離れた路上で座り込んでいた。どうも転倒したらしく、メガネのレンズが外れ、擦り傷もあった。幸い、大きな事故にならずに済んだが、当の本人はそのこともすぐに忘れてしまっていた。

事故の報告をすると、奥さんは「幸か不幸か歩けるようになって、かえって皆さんに迷惑をかけるようになってしまって私も辛い。『歩けるようになると、その後が大変だ』と言われていたのよ」と嘆かれた。いやいや…これは愛宕の家の介護側の不注意による事故であり、施設としてのその責任は重い。認知症の高齢者が増えてくる一方で、その人の人格の尊重と他の同居人に対する配慮や介護者のストレスも含め、どのような形で折り合いを付けていけばいいのだろうかというのは大きな課題である。Yさんが歩けるようになったことは幸か不幸か…。その答えはこれからのYさんのQOL(生活の質)に対し真摯な気持ちで向き合っていく中で見出していけるに違いない。(I)

《 必要な部分を / ナイス・ホーム 》

足を骨折し、しばらく娘さん宅で過ごしていたKさん。津島市内の自宅へ戻り、再び独り暮らしを始めるのを機に介護認定を受けられました。その結果、要支援2となり、10月からナイス・ホームを利用されています。歩けるようになったとは言え、以前のように何でも出来る訳ではありません。自転車に乗って出掛けたり、雑巾がけをしたり、布団を干すことも難しいそうです。「今度転んだら、寝たきりだからね」とも言われ、慎重に歩いています。



Kさんと一緒に外出する時、スタッフは段差に注意したり、掛け声をかけたりしながら歩きます。また、ご自宅でスタッフがさせてもらったのは、床の雑巾掛け等わずかなこと。「これとこれだけでいいんやわ」と言われます。後はご自分で頑張っています。

スタッフはつい「他に出来る事はないだろうか？」と自分の仕事を探してしまいがち。でも、要支援の利用者さんに対して、意欲を引き出すのがスタッフの役目。Kさんが「ひとりでは無理かもしれないけど、一緒なら出来るかも」と一歩踏み出すきっかけになれば嬉しいです。

そして、お手伝いが必要な時、気軽に頼って頂けるように…。まだ始まったばかりですが、そんな関係が築いていければいいなあと思っています。

《 編集後記 》

1ヶ月前にはまだ「暑い～」と言っていたのに、今ではすっかり上着や暖房のお世話になっています。この変化に体がついていかず、油断して風邪を引いちゃいました。自身の健康管理も仕事のうち。体調を崩さないようしっかり自己管理しなければ…。栄養と睡眠をしっかり取って明日に備えたいと思います。(M)

《 子ども達は悩んだ！ / ナイス・キッズ 》

ある日の出来事です。子ども達：「段ボールで家作るから使ってい～い？」 スタッフA：(廃品置き場のダンボールだろうな) 「いいよ。遊び終わったらきちんと元の場所に片付けてね。」 目をキラキラさせながら家を作る子ども達。しかし…子ども達が使ったのは倉庫にしまっていたスタッフBが使用予定のダンボール。 スタッフB：「ちょっと、あんた達、何使ってるの！？」

子ども達：「だって、使ってい～いかって聞いたもん」 スタッフB：(思わず勢い余って) 「倉庫の物は勝手に使ってい～いかん。一生、倉庫に入るな！」

その後、子ども達は「元の場所に片付けると約束したが、一生倉庫に入るな」と言われた…。どうやって片付けよう???

真剣に悩む子ども達に思わず笑ってしまった一瞬でした。

